

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成29年1月19日(2017.1.19)

【公表番号】特表2015-505880(P2015-505880A)
 【公表日】平成27年2月26日(2015.2.26)
 【年通号数】公開・登録公報2015-013
 【出願番号】特願2014-546241(P2014-546241)
 【国際特許分類】

C 0 9 D 201/00 (2006.01)
 C 0 9 D 7/12 (2006.01)
 C 0 9 D 9/00 (2006.01)
 C 0 9 D 133/02 (2006.01)
 C 0 9 D 123/08 (2006.01)
 C 0 9 D 125/08 (2006.01)
 C 0 9 D 135/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 201/00
 C 0 9 D 7/12
 C 0 9 D 9/00
 C 0 9 D 133/02
 C 0 9 D 123/08
 C 0 9 D 125/08
 C 0 9 D 135/00

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成28年11月28日(2016.11.28)
 【誤訳訂正1】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】全文
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

処理用配合剤から形成される有機金属層であって、
 前記処理用配合剤は、

(a) 多重キレート官能基を含む有機高分子であって、前記多重キレート官能基が、酸性基、もしくは反応混合物中のカルボキシル基を持つ無水前駆体から選択される酸性基を形成可能な基、又はホスホン酸基である、多重キレート官能基を含む有機高分子と、

(b) 銀、銅、ニッケル、ストロンチウム、タリウム、スズ、チタン、バナジウム、亜鉛、タングステン又はジルコニウムの酸化物、水酸化物、又は塩の中から選択され、かつ、前記多重キレート官能基を含む有機高分子と共に有機金属錯体を形成する金属物質と、

(c) 溶媒と
 を含み、

多重キレート官能基を含む有機高分子のキレート官能基(A)に対する金属物質(Z)のモル比(Z:A)は、1:1(Z:A)~1:10(Z:A)の範囲であり、

前記処理用配合剤は、配合剤の総重量を基準として1%~10%の範囲の固形分濃度を有し、

前記有機金属層は、5ミクロン(5μm)以下の乾燥厚さを有し、任意選択的に塗装さ

れた基材と、塗装系の少なくとも1層の後塗装層との間に位置し、かつ、アルカリ性剥離剤により破壊されることができる、有機金属層。

【請求項2】

有機架橋剤をさらに含む、請求項1に記載の有機金属層。

【請求項3】

前記多重キレート官能基が多重カルボキシレート官能基である、請求項1又は2に記載の有機金属層。

【請求項4】

多重キレート官能基を含む前記有機高分子は、アクリル酸、メタクリル酸、又はマレイン酸無水物とエチレン又はスチレンとの共重合体又はオリゴマーである、請求項1～3の何れか1項に記載の有機金属層。

【請求項5】

多重キレート官能基を含む前記有機高分子のキレート官能基(A)に対する金属物質(Z)のモル比(Z:A)は、1:2(Z:A)～1:5(Z:A)の範囲である、請求項1～4の何れか1項に記載の有機金属層。

【請求項6】

前記有機架橋剤はカルボジイミドである、請求項2に記載の有機金属層。

【請求項7】

前記任意選択的に塗装された基材は、金属、高分子、複合材料、又はエラストマーである、請求項1～6の何れか1項に記載の有機金属層。

【請求項8】

前記後塗装層は、全部又は一部が架橋された有機塗料である、請求項1～7の何れか1項に記載の有機金属層。

【請求項9】

塗装系であって、

(i)任意選択的に塗装された基材と、

(ii)少なくとも1層の後塗装層と、

(i)と(ii)との間に位置する請求項1～8の何れか1項に記載の前記有機金属層とを含む、塗装系。

【請求項10】

任意選択的に塗装された基材を少なくとも1層の後塗装層で塗装する方法であって、

(i)前記任意選択的に塗装された基材に対して請求項1～8の何れか1項に記載の有機金属層を形成するために、(a)多重キレート官能基を含む有機高分子であって、前記多重キレート官能基が、酸性基、もしくは反応混合物中のカルボキシル基を持つ無水前駆体から選択される酸性基を形成可能な基、又はホスホン酸基である、有機高分子と、(b)銀、銅、ニッケル、ストロンチウム、タリウム、スズ、チタン、バナジウム、亜鉛、タングステン又はジルコニウムの酸化物、水酸化物、又は塩の中から選択され、かつ、前記多重キレート官能基を含む有機高分子と共に有機金属錯体を形成する金属物質と、(c)溶媒とを含む処理用配合剤を適用する工程であって、多重キレート官能基を含む有機高分子のキレート官能基(A)に対する金属物質(Z)のモル比(Z:A)は、1:1(Z:A)～1:10(Z:A)の範囲である、工程と、

(ii)前記有機金属層に少なくとも1層の後塗装層を適用する工程とを含む方法。

【請求項11】

多重キレート官能基を含む有機高分子のキレート官能基(A)に対する金属物質(Z)のモル比(Z:A)は、1:2(Z:A)～1:5(Z:A)の範囲である、請求項10に記載の方法。

【請求項12】

処理用配合剤から形成される有機金属層上に適用された後塗装層を選択的に剥離するた

めに任意選択的に塗装された基材に適用される処理用配合剤であって、

(a) 多重キレート官能基を含む有機高分子であって、前記多重キレート官能基が、酸性基、もしくは反応混合物中のカルボキシル基を持つ無水前駆体から選択される酸性基を形成可能な基、又はホスホン酸基である、多重キレート官能基を含む有機高分子と、

(b) 銀、銅、ニッケル、ストロンチウム、タリウム、スズ、チタン、バナジウム、亜鉛、タンゲステン又はジルコニウムの酸化物、水酸化物、又は塩の中から選択され、かつ、前記多重キレート官能基を含む有機高分子と共に有機金属錯体を形成する金属物質と、

(c) 溶媒と
を含み、

多重キレート官能基を含む有機高分子のキレート官能基(A)に対する金属物質(Z)のモル比(Z:A)は、1:1(Z:A)~1:10(Z:A)の範囲であり、

前記処理用配合剤は、配合剤の総重量を基準として1%~10%の範囲の固形分濃度を有し、

前記処理用配合剤は、任意選択的に塗装された基材と、塗装系の後塗装層との間に位置し、かつ、アルカリ性剥離剤により破壊されることができ、5ミクロン(5μm)以下の乾燥厚さを有する有機金属層を形成するために使用される、処理用配合剤。

【請求項13】

前記溶媒は、水、極性有機溶媒、又はそれらの混合液である、請求項12に記載の処理用配合剤。

【請求項14】

架橋剤及び/又は添加剤をさらに含む、請求項12又は13に記載の処理用配合剤。

【請求項15】

多重キレート官能基を含む有機高分子のキレート官能基(A)に対する金属物質(Z)のモル比(Z:A)は、1:2(Z:A)~1:5(Z:A)の範囲である、請求項12~14の何れか1項に記載の方法。

【請求項16】

請求項1~9の何れか1項に記載の塗装系から少なくとも1層の前記後塗装層を選択的に除去する方法であって、

(i) 前記有機金属層を破壊することができるアルカリ性剥離剤を用いて前記少なくとも1層の後塗装層を処理する工程と、

(ii) 前記塗装系から前記少なくとも1層の後塗装層を除去する工程と
を含む方法。

【請求項17】

少なくとも1層の後塗装層を用いて、任意選択的に塗装された基材を塗装する方法であって、

(i) 請求項1~9の何れか1項に記載の塗装系から少なくとも1層の塗装層を除去するために、前記有機金属層を破壊することができるアルカリ性剥離剤を用いて、前記塗装系の前記少なくとも1層の後塗装層を処理する工程と、

(ii) 請求項1~8の何れか1項に記載の有機金属層をさらに形成する工程と、

(iii) 少なくとも1層のさらなる後塗装層を前記有機金属層に適用する工程と
を含む方法。

【請求項18】

少なくとも1層の後塗装層を用いて、任意選択的に塗装された基材を塗装する方法であって、

(i) 請求項1~9の何れか1項に記載の塗装系から少なくとも1層の後塗装層を除去するために、前記有機金属層を破壊することができるアルカリ性剥離剤を用いて、前記塗装系の前記少なくとも1層の後塗装層を処理する工程と、

(ii) 少なくとも1層のさらなる後塗装層を適用する工程と、

(iii) 少なくとも1層のさらなる後塗装層を除去するために、有機金属層を破壊することができるアルカリ性剥離剤を用いて、前記少なくとも1層のさらなる後塗装層を処

理する工程と、

(i v) 前記少なくとも1層のさらなる後塗装層を除去する工程と、

(v) 工程 (i i) から工程 (i v) を任意選択的に繰り返す工程と、

(v i) 請求項 1 ~ 8 の何れか1項に記載の有機金属層をさらに形成する工程と、

(v i) 少なくとも1層の別のさらなる後塗装層を前記さらに形成された有機金属層に

適用する工程と

を含む方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

有機金属層は、任意選択的に塗装された基材から1層以上の後塗装層を剥離する必要がある場合には、塗装層間の密着性及び剥離可能な機構の双方を促進する二重の利点を提供することができる。また、有機金属層は、例えば油圧液、航空燃料及び洗浄剤などに対する耐薬品性を提供し、航空宇宙分野の塗装系において、環境耐久性、機械的特性、美観（色調及び光沢性）に対する要求を満たす。

（多重キレート官能基を含む有機高分子）

多重キレート官能基を含む有機高分子は、少なくとも2つのキレート基、好ましくはカルボキシキレート基、より好ましくは酸性基、又は、限定されるものではないが、反応混合物中に (i n s i t u)カルボキシル基を持つ無水前駆体を含む酸性基を形成可能な基、あるいはホスホン酸基、を含む有機高分子、及び、好ましくは、限定されるものではないが、カルボキシル基を持つ無水前駆体、又はホスホン酸を含む、少なくとも2つの酸性基を含む高分子又はオリゴマーである。官能基は単独重合体又は共重合体にあってもよい。高分子及びオリゴマーは、200 ~ 1,000, 000、好ましくは5,000 ~ 50,000の分子量を持つ単独重合体又は共重合体から選択することができる。有機高分子の分子量は、適用が容易な溶解性を有機金属層が維持することができるように選択されることが理解されよう。